

平成28年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

平成29年5月5日

代表者 伊藤 恵子

| | |
|-------|--|
| 研究課題名 | コミュニケーション支援のための自閉スペクトラム症(ASD)児の語用論的能力の検討 |
| 研究期間 | 平成28年5月31日～平成30年3月31日 |
| 共同研究者 | 安田 哲也 |

1. 今年度の研究概要

平成26-27年度の申請者らのプロジェクト研究と予備調査で、自閉スペクトラム症(ASD)児は会話の流れや文脈といった語用論的情報を利用し、話者の発話意図解釈につなげている可能性を見出した。本研究では、エビデンスに基づいたASD児へのコミュニケーション支援へとつなげていくために、会話の流れに着目し、かれらが話者の発するどの語用論的情報を発話意図の解釈に利用しているのかを要因計画法を用いた実験により調べることを目的とした。

平成28年度の本プロジェクト研究は、ASD児がどの程度、語用論的情報、とくに会話の流れを利用できるかに着目し、下記の2点に関し、要因計画法を用いた実験を行い、語用論的能力について検討を行なった。

[1]文脈情報の程度と発話意図の解釈

前プロジェクト研究では、文脈を付与した映像刺激を参加者が視聴し、発話意図を選択肢から選択させた結果、ASD・TD (Typically developing: 定型発達)児ともに、発話意図の解釈に差異は見られなかった。一方、視線運動に関しては、ASD児はTD児よりも顔を多く見ていたため、発話意図をTD児とは異なったプロセスで解釈した可能性が考えられる。平成28年度は伊藤ら(2015)の刺激映像による話者の発話意図推測実験に音声による状況説明を加えた発話意図推測実験を行い、データ収集を行なった。映像刺激は、共同研究者である安田が作成した映像を基に作成した。

[2]文脈情報の時系列的利用と発話意図の解釈

ASD児が日常コミュニケーションで躓く要因を調べるために、「会話の間(ま)」の時系列非言語情報に着目し要因計画法に基づく実験を行なった。「間」の手がかりと話者の非言語的手がかりを統合的に調べることで、コミュニケーションの場で適応できないASD児の支援につながる知見を提出できる可能性がある。発話の間を調べるために要因を統制した刺激を作成し、実験を行った。

平成29年度は、前年度で得られた知見を精緻化し、論文化を目指す。

2. 研究の成果

[1] 文脈情報の程度と発話意図の解釈

ASD 児が話者の発話意図を提示条件の相違によって、どのように推測するか調べることを目的として、伊藤ら(2015)の刺激映像による話者の発話意図推測実験に音声による状況説明を加えた発話意図推測実験を行った。その結果、刺激映像のみ条件より、刺激映像に音声による状況説明を加えた条件のほうが、正答数が有意に多い傾向がみられた。このことから、ASD 児に対して状況を映像のみで示した場合よりも、状況を音声で説明してから映像を示した場合のほうが他者の発話意図を適切に推測していることが分かった。

[2] 文脈情報の時系列的利用と発話意図の解釈

微細な表情変化の読み取りなどが苦手とされる ASD 児は、発話の間に関する理解は成人とほぼ同様の理解であり、発話の間が短いとポジティブな情動表出、長いとネガティブな情動表出が起こることが示唆された。このことから、非言語情報であっても、発話の間という語用論的情報は、コミュニケーションにおいて利用しやすい資源であることが考えられる。

3. 研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

研究成果の公表実績

- A) 安田哲也, 小野加奈子, 伊藤恵子. (2017). 他者意図推測における発話の間とその表情理解. 電気学会知覚情報・次世代産業システム合同研究会資料. pp.27-31.
- B) 安田哲也, 伊藤恵子, 高田栄子, 小林春美. (2016年9月). 発話意図推測に関する文脈の手がかりと言語的手がかりの理解. 日本認知科学会第32回大会, O2-2, pp.426-429. 北海道大学

研究成果の発表予定

- C) 伊藤恵子, 安田哲也, 高田栄子, 小林春美. 日本特殊教育学会第55回大会にて「提示条件の相違による ASD 児の発話意図推測」2017年9月発表予定

投稿準備中

A(成果公表実績)での議論を踏まえ、注視点計測装置でのデータ解析や再分析を行い、知見の精緻化を行なった後「他者意図推測における発話の間とその意図理解(安田, 高田, 伊藤 (予定))」について投稿を行なう。C(成果発表予定)での発表や議論などから、知見を精緻化し、「話し手の発話意図に関する非言語的情報の理解(伊藤, 安田, 高田, 小林(予定))」について投稿を行う。以上の研究は、コミュニケーション障害学や認知科学などの学術雑誌へ投稿する予定である。

平成 28 年度(2016 年) 研究概要

| | |
|--------|---|
| 研究所・部門 | プロジェクト研究 採択研究 |
| 研究課題名 | コミュニケーション支援のための自閉スペクトラム症(ASD)児の語用論的能力の検討 |
| 研究代表者 | 伊藤 恵子 |
| 研究期間 | 平成 28 年 5 月 31 日 ~ 平成 30 年 3 月 31 日 |
| 共同研究者 | 安田 哲也 高田 栄子 (学外共同研究者) 小林 春美 (学外共同研究者) |

1. 研究成果取組状況

(1) 国内外の学会発表

| 状況 | 発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所 | 招待講演 |
|------|---|------|
| 発表済 | *伊藤恵子, 安田哲也, 高田栄子, 小林春美. (2017 年 9 月). 提示条件の相違による ASD 児の発話意図推測. 日本特殊教育学会第 55 回大会, P6-49. 名古屋国際会議場. | 無 |
| 発表済 | *安田哲也, 伊藤恵子, 高田栄子, 小林春美. (2016 年 9 月). 発話意図推測に関する文脈の手がかりと言語の手がかりの理解. 日本認知科学学会第 32 回大会, O2-2, pp.426-429. 北海道大学. | 無 |
| 発表予定 | | |

(2) 雑誌論文(学内紀要含む)

| 状況 | 発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所 | 査読有無 |
|-------------|--|------|
| 印刷中 | *伊藤恵子, 安田哲也, 高田栄子, 小林春美. (印刷中). 提示条件の相違による自閉スペクトラム症児の発話意図推測. 『社会環境論究』. | 有 |
| 投稿済 | *安田哲也, 小野加奈子, 伊藤恵子. (2017 年 3 月). 他者意図推測における発話の間とその表情理解. 電気学会知覚情報・次世代産業システム合同研究会資料. pp. 27-31. | 無 |
| 投稿中 投稿予定 | | |

(3) 図書等の出版

| 状況 | 発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所 |
|------|------------------------------|
| 出版済 | |
| 出版予定 | |

(4) シンポジウム・講演会等の開催

| 状況 | 主催者名・協賛社名等, 講演(発表タイトル), 実施年月日, 実施場所 |
|------|-------------------------------------|
| 開催済 | |
| 開催予定 | |

(5) 本研究に関連して本学経費以外に支援を得た補助金など

| 年度 | 機関・財団名, 事業名, 課題名 |
|------|---|
| 2016 | 日本学術振興会, 若手研究(B), 指示タイミングを利用した非言語情報の統合的利用と指示意図推測の検討 (安田 哲也) |
| | |